

アドバイス

教科書を読む工夫

通信教育における教科書は、通学課程の講義にあたるものですから、最初からじっくり読んでいくのが正攻法といえます。わからない言葉に出会ったら辞書やインターネットで調べながら、教科書をひとつおき読んでください。ひとつの学問分野の全体像や体系にふれながら、幅広い知識や考え方を身につけることは、大学で学問にふれる目的のひとつだと思います。

しかし、それでは読み続けるのが難しいとか、なかなか頭に入らないという科目も出てくると思います。その場合は、本を最初のページから読んでいくことはやめてみましょう。目次をながめて、自分が興味のもてる章から読んでいく、あるいはレポート課題の解答をさがしながら読んでいく——これらを試してみてください。

人間の頭は、興味・関心のあることに対してや、目の前の問題解決のためには、よく働くことになっているようです。また、学問の基本は、日常生活・社会生活のなかのひとつひとつの疑問に答えていくことですから、レポートの解答をさがしながら教科書を読んでいくことは学問の現場そのものといえます。この時、読みながら大切だと思ったこと、解答に役立ちそうだと思ったことはアンダーラインをひいておいたり、ノートに書き写しておきましょう。また、自分なりに考えたことも教科書の余白やノートにメモしておきましょう。

レポートを書き始めると、自分のわかっていない箇所がみえてくると思います。その疑問を解くためには、教科書の他の箇所や教科書以外の参考図書を読み進める必要が出てくるでしょう。その繰り返しのなかで、次々と視点がひろがり、さまざまなことが関連しているという知識の網の目がひろがり、知る喜びを得られることと思います。

「問題意識をもって教科書を読もう！ 自ら疑問符となって本と対話しよう！」——教科書を読む工夫のひとつとして試してみてください。そして、自ら教科書と格闘し理解したことを自分のことばで要約したものをレポートにしてください。

学び始めることを決意された皆さんがあきらめることなく、一步一步前進されることを切に願っています。途中で息切れしないようにすることにも、十分配慮してください。

岡田清一先生による「レポートの書き方」ガイダンスの資料から一部を掲載させていただきます。

1 一般的留意点

- (1) ひとつのテーマに対して200字前後の段落を設定。ひとつの段落ごとに改行。改行の意味をよく考えること。ひとつの文章が終わるたびに改行するものを見うけるが、誤り。
- (2) 一文の長さは50字がめやす。
- (3) 簡潔な表現
- (4) 論理的な表現
- (5) 文体は統一する（「～である」「～であります」を併用してはならない）
→レポートの場合は「～である」を使うのが原則。
- (6) 問題提起と結論は整合性を持たせること。
- (7) 接続詞は慎重に使うこと。→一文ごとに使う必要はない。
時には省略→単調な文が続くことを避けるため。
- (8) 下手でもよいから楷書で、ていねいな文字で書くこと。

2 レポートを記述するにあたって

- (1) そのテーマがどのような目的や意図から出題されたものか、題意を把握する。
- (2) 内容の要旨、問題点、それに対する自分の意見、批判を順序よく論理的に構成し、全体の構成を考える。自分の意見、批判の根拠を明示。
(例)・与えられたテーマに関連する項目を抽出する。
 - ・項目の相互関連を矢印によって結びつける。
 - ・不必要な（あるいは書けない）項目をカットする。
- (3) 書き終えたら、誤字・脱字・かな使い・句読点を点検。

3 漢字とかなの使い分け

次のものは、ひらがなで表記した方がよい。

- ①代名詞 これ、この、その
- ②副詞 すべて、およそ
- ③連体詞 ある、いかなる
- ④接続詞 また、しかし、および、ただし、かつ、ところで、ゆえに、したがって
- ⑤助動詞 ～のようだ、これしかない
- ⑥助詞 ながら、まで、ほど、おいて、くらい
- ⑦補助動詞 ～してみる、～してください、～してあげる、～しておく
- ⑧形式名詞 こと、ところ、もの、はず、ゆえ、ため

通信教育部の学生のなかには「学習する時間がとれない」点をはじめ、レポート作成に苦勞されている方が多くいらっしゃるようです。学生の方々から、レポートが進んでいない方へのアドバイス・メッセージをお寄せいただきました。参考にしてください。

●自分で締切を設定する

- ・自分自身の中で締切を作ってしまうこと。これしかありません。
- ・〇月の科目修了試験を受けようと決めていたり、〇月末に××のレポートを仕上げるといふ計画表を作って机に貼っています。
- ・「とにかく書く！何がなんでも書く！」という意気込みで書く。

●時間をつくる

- ・常に何らかの教科（教科書や参考文献）を持ち歩いて5分でも目を通すようにしています。
- ・有休をとってでも仕事に追われない時間を作って、学習するのがいいと思います。
- ・図書館を活用し、勉強部屋代わりに集中するため家事から離れる！外へ出てみる！
- ・メンタルヘルスや行政主催の講演、福祉まつりにどんどん出かけ、ナマの情報をキャッチしてくる。通信のレポートだけ書いていたって深まらない。

●初心を思い出して

- ・通信制の人たちは、みんな何か目的があって入学したと思います。私も毎日の生活に追われ、なかなか思うように進んではいみせんでしたが、そんな時は、なぜ入学をしたのかをもう一度考えて自分の目的を振り返ってみるといいのではないかと思います。
- ・自分で進んで入学したのだから、進まないは甘えではないか。やるしかない！

●レポート課題は常に頭の中に

- ・日頃から学習に関連した記事などを切り抜いておくと、レポートに取りかかる際に非常に参考になります（レポートを書く段階になってから記事を集めようとする、時間もかかりますし、多くを集めるのは困難ですから）。

●書き出してみよう

- ・レポートの書き出しを自分である程度いくつかパターンを持つことでレポートを書くとうっかりができるのでは？と思いますが……。
- ・とにかく書きはじめること。私は、本番のレポートに直接書き2～3回、書き直しています。レポート用紙代はかかりますが。

●出してみよう

- ・レポートはきちんと書こうと思わないで、とりあえず出してみる。科目修了試験もできるだけ受けて、その場の様子を感じ、他の科目の出題傾向も知ることができるのでおすすめです。

・レポートの合否を問わず、思いきって提出したら次の方向もおのずと決まってくるので、ある程度の見切りが大切かもしれません。

●自分のペースで

・他人は他人。自分のペースでやるしかない。やらないのは問題外だけど。やれないのだから他人と比べてもしかたがない。

●他の人と話す

・同じ教科で悩んでいる仲間を見つける。そして一緒に悩む。たまには気分転換をする。
・心理のレポートでは、日常の自分にヒントをみつけることがたまにある。

●スクーリングに出席する

・なかなか進まない気持ちはよくわかります。私もその一人です。でもスクーリングに来ることが私の良い刺激です。スクーリングに来ると、みなさんが頑張っていたり、とても前向きなので私もパワーをもらっています。

●スクーリングの刺激を忘れないうちに

・たくさんの通教の学生さんの熱心ぶりを目にする、「頑張ろう！」とモチベーションが上がります。帰ってその刺激を忘れないうちにレポートを書くようにしています。

さらに、具体的な学習法について、次のようなアドバイスもいただきました。

●レポート課題に取り組む私なりの手順

最初はどのようなふうに取り組めばよいかわかりませんでした。現在は、次の(1)～(7)のような流れでレポートに取り組んでいます。

- (1) 課題に関するテキストを読む（できるだけ、すべての科目のものを読む）。
- (2) レポート課題に沿った資料①（理論や背景・歴史など）を図書館などで収集し読む。
- (3) (1)・(2)の過程で、よく出てくる人名や用語等について着目する。
- (4) 資料を整理・分類する（パソコン・手書き）。
- (5) 科目のテキストをもう一度読む（他の科目の知識や勉強したことが反映されて、読みが深まる）。
- (6) 課題に取り組む。自分なりの解釈ができるように＝日常の出来事や事例におきかえられるように、資料②（読みやすい理解しやすい事例の載ったもの）の収集をして、下書きをする。最初は多く書き、絞り込んでいく。
- (7) レポートを作成する。

(1)～(4)の過程で、さまざまな領域を一緒に考えている時間はかかりますが、出したレポートのフィードバック（先生の指導や指摘）が、他の領域にも生きることであります。